

1、赤蓑騒動の概要

文政8年12月14日の夜半から、この騒動は始まる。文政8年は凶作の年で米価が高騰し、小谷一円では生活の糧としていた麻が安く買いたたかれて、農民は追い詰められた結果となった。四ヶ庄平の佐野村・沢度村の百姓3、40人が集まり、「出て来ない者は打潰すぞ。」と呼ばわり人数を集めていった。この人々が次々と商人・大庄屋・庄屋・酒屋・質屋・問屋・麻師など宅を打ち壊していった。更に進むに従って周辺の村々が加わって数千人の規模となり、池田から穂高、飯田から真々部、一日市場へと向う。もう一方は下堀、岩原へと進む。藩ではここで奉行・御物頭、侍同心が出張（でばり）召し捕りにかかり、関係者180人を捕え、騒動（一揆）は鎮圧された。

この騒動は、百姓のいでたちが「しなと云える木の皮に編みたる赤毛の蓑を被り」とあることや、騒動の記録のなかに「赤蓑談」（上の写真）とあることから、赤蓑騒動と呼ばれたり、騒動の発生した佐野村・沢度（さわど）村あたりを「四ヶ庄（しかじょう）」と呼ぶことから「四ヶ庄騒動」といつたりしている。また文政年間に起こったので「文政騒動」（北安曇郡誌）、「大町組百姓騒動」（右の写真）などともいわれている。

（「松本領大町組百姓騒動并御役人所々御出張郷々御堅メ」寺島家文書：松本城管理事務所蔵）

2、騒動の経過

○12月14日の夜

大町組佐野・沢度村からほら貝を合図に騒動は起こった。先ず北上して塩島新田村（しおじま）で酒屋2軒を打ち壊した。

○12月15日

今度は南下して大町に向う。飯森村で3軒、飯田・佐野・木崎で1軒ずつ打ち壊し、海の口で代官・大町組大庄屋・庄屋らと対峙（たいじ：向き



合うことの意)した。代官は城下に情報を送ると共に、200人程の人夫を集め大町への乱入を防ごうとした。しかし勢いに押されて防げず、大町商家の家々(麻問屋・酒屋・穀屋・肴(さかな)問屋・大庄屋・質屋など)を襲い打ち壊した。宮本から池田町へ出る。

街道筋の村々の百姓がぞくぞくと加わり、合流して数千人も及んだ。宮本村へ代官が出て「願之筋あらば取次可申」としたが、それには答えず池田町へと進む。池田町では5軒(大庄屋・呉服・質屋)ほど打ち壊した。その後林中・内鎌から高瀬川原に出る。ここで代官中村弥兵左衛門以下手代・人足200人で制止にかかるが、これを蹴散らかす。

○12月16日

青木花見から古厩(ふるまや)・耳塚・細野の庄屋・酒屋を襲う。さらに橋爪から保高町に進み、大庄屋、庄屋、問屋7軒を壊した。そして等々力・白金・矢原・細萱へと進む。騒動に加わる百姓も多く膨れ上がる。成相本村で二手に分かれる。

- ・飯田から真々部、一日市場へと回り潰す。夜半奉行・御物頭等で召し捕りを始める。
 - ・下堀から岩原へと進み打ち壊す。夜侍同心が出て召し捕る。
- ここで騒動は鎮圧された。夜九つ(12時)頃という。自分の村に逃げ帰る。

○12月17日

小谷の来馬・石坂辺に集まり、下り瀬から石原へと押し寄せる。今度は北辺小谷の騒動で、酒屋・庄屋を打ち壊す。日道から宮本、小土山へと上る。千国へ出、番所にて南に出るのを止められると再び引き返し、土谷から中土へと打ち壊しながら進む。

○12月18日

朝一隊は大網を襲い、一隊は再び千国へと向うが、南の一隊が追われ捕えられていると聞き、治まる。

こうして4日半にわたった騒動は終わった。騒動に参加した者はその役割の軽重を問われ、処分が下された。頭取は永牢、村追放の者、組がまい(組追放)の者、過料銭(罰金)御役御免、御しかり等の処分であった。

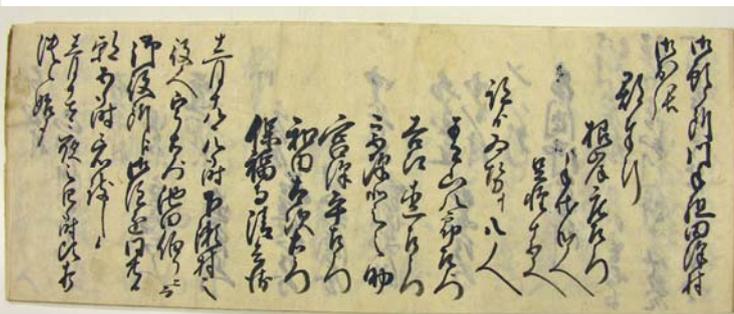
3、藩の堅め・・・「松本領大町組百姓騒動并御役人所々御出張郷々御堅メ」より

松本藩が鎮圧対策をとったのは、16日になってからで、左の図のごときである。城下の入り口にあたる六九口(大筒2挺)・安原口、博労町口を固めた。その外新橋、熊倉橋には鉄砲組方や鉄砲を配備して備えた。成相新田には大目付・郡奉行が出張り、鎮圧に当たった。また、預り領和田組や川手組などにも出張り備えた。

松本藩城下のかため

場所	役職	氏名	付	その他
六九口	組頭	中榮殿之助	御番頭兼付	
	組頭	林 監物	組諸士衆	
	物頭	野間雄左衛門	小頭兼付 同心50人	
安原口	組頭	近藤庄兵衛	組諸士衆	大筒2丁
	物頭	伊田喜右衛門	同心50人番頭	番頭1人宛
博労町口	組頭	西郷八郎左衛門	組諸士衆	
	物頭	藤田太郎左衛門	足軽50人番頭	番頭1人ツツ
新橋	組頭	戸田國書	組諸士衆	
	物頭	大原長兵衛	足軽20人小頭	小頭1人ツツ
熊倉橋	大目付	田子八弥	小姓組方	諸士騎馬、陣羽織
	物頭	増田万右衛門	鉄砲組方	幕張り 大筒、弓、鉄砲 庄内組14か村人足
大妻橋	徒士目付	横田清藏	足軽25人	鉄砲25丁
	徒士目付	内山林左衛門		人足
成相組	物頭	吉江助右衛門	足軽20人	
	物頭	木村喜右衛門	小頭1人	
御預所 御固め	御奉行	山田鉄治郎	郡手代2人	
	郡奉行	石川彦兵衛	足軽20人	
	郡奉行	小里卯平治	預役所郡方手代	
	郡奉行	駒井彦左衛門	同心30人	
	郡奉行	浦野勘左衛門		
	郡奉行	牧 喜市郎		
	使番	野々山弥門		
成相組 新田所々 返廻り	物頭	内田元右衛門	足軽30人	
	物頭	福村小弥太		
御預所 和田組	物頭	近藤源右衛門		
	郡奉行	神方輔助	手代2人	
御預所 川手組	郡奉行	柴田七郎兵衛	足軽20人	
	郡奉行	根岸庄左衛門	手代2人	
田沢村	郡奉行		足軽15人	
	郡奉行			
北御預所 村役人御 出張へ付 添	物頭	青山八郎左衛門		
	物頭	吉江直左衛門		
	物頭	宮沢登之助		
	物頭	宮沢平左衛門		
	物頭	和田太次右衛門		
	物頭	保福寺清兵衛		

「松本領大町組百姓騒動并御役人所々御出張郷々御堅メ」(松本城管理事務所所蔵寺島家文書)「松本領大町組百姓騒動御役人所々御出張口々御堅控之」(藤沢市文書館所蔵丸山家文書)「大町騒動之事記」(松林右橋家文書)より作成。



4、騒動の位置づけ

この騒動は村役人層や富裕特権商人宅を打ち壊し、経済的格差の解消を目指した点で、「世直し騒動」と似かよっている。その点で「世直し騒動」のさきがけとみることができる。◎野も山も戸田も西郷もこんどこのことは 松本武士のならないなりけり(ちょぼくれ)